

広島市 元広島県知事 <sup>たかのげんしん</sup> 高野源進書簡 仮目録

広島県立文書館

平成 28 年 (2016) 4 月

凡 例

- 1 本目録には、広島市 元広島県知事 高野源進書簡を掲載した。
- 2 目録の各項目は次のとおり。

**請求記号** 本文書群の群番号は (201310) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 → 201310/1

**表 題** 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。内容等で補記すべきものがあれば( )で補った。集合形態をした資料の内訳を示す場合には、頭に“o”を付けた。

**年 代** 資料に記された作成年月日を探り、推測した場合は( )書きで表記した。

**作 成** 資料に授受関係のあるものは→で結んで表記した。多人数にわたるものは、適宜「外○名」と略記した。

**形 態** 資料の形態を記した。

**数 量** 資料の点数を記した。

**備 考** 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

- 3 文書の配列は請求記号順とした。

- 4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

## 【文書群概要】

# 広島市元広島県知事 <sup>たかのげんしん</sup>高野源進書簡（請求記号 201310）

被爆当時の広島県知事高野源進が被爆前後に発した書簡など

出所 池田 清  
出所地名 大阪府  
分量 1点（5通）

**収蔵までの経緯** 書簡宛先の池田清（1885～1966）は官僚・政治家。昭和27年（1952）に衆議院議員に当選、晩年は鎌倉市で過ごし、昭和41年に死去した。昭和31年から昭和41年まで池田氏の私設秘書であった鈴木千載氏が、池田氏の死後この書簡を保存し、昭和54年2月、広島県史編さん室の近代・現代史部へ送付した。県史編さん終了後、この書簡は広島県史編さん室員の手に残り、平成25年（2013）4月に広島県立文書館へ預けた。

当館では、鈴木千載氏へこの書簡を返却しようとしたが、すでに亡くなり、関係者もおらず、返却できなかった。しかし、この書簡の公共性を考慮し、広島県立文書館の収蔵文書（所蔵者不明の寄託文書扱い）とし、登録することにした。なお、高野源進氏の息子である高野源明（もとあき）氏から、当館で一般利用に供することについて承諾を得た。

**年代** 昭和20年（1945）など。

**歴史** 高野源進（1895～1969）は福島県出身で、警察畑を歩いた後、山梨県知事、大阪府次長などを経て昭和20年6月に広島県知事に着任した。宛先の池田清は、高野と同様に警察出身の内務官僚で、昭和19年8月から昭和20年4月まで大阪府知事（再任）を務め、高野が大阪府次長であった当時の直接の上司であった。同年10月11日、高野は警視總監に栄転して広島を離れたが、翌年1月に公職追放され辞職した。その後は公職を引退して弁護士となり、凸版株式会社監査役を務め、昭和44年1月4日に73歳で死去した。

原爆当日の昭和20年8月6日、高野は福山地方へ出張して無事であったが、シナ夫人は被爆死した。中国総監府の大塚惟精総監と栗屋仙吉広島市長が被爆死したため、高野は生き残った行政トップとして、被爆後の広島市の処理に当たった。

**内容** 高野源進書簡は、昭和20年6月20日付け、7月21日付け、9月8日付け、10月4日付けの4通。赴任直後の6月20日付け書簡からは、すでに大阪空襲を体験した高野にとって、広島は民防空責任者として、空襲への備えが最大の関心事であったことが窺える。被爆前の7月21日付け書簡で、高野は広島に空襲がないことを却って気味悪く感じていた。被爆後の9月8日、安芸郡向洋の東洋工業内に置かれた臨時県庁から発した書簡では、敗戦は誠に無念と心情を吐露しつつ、天皇の終戦詔書に従い皇国の再建を期すことを誓うとともに、広島県庁では出張中の者を除く職員全員が被害を受け、606人が被爆死したことを伝える。占領軍が矢継ぎ早に改革指令を出す最中の10月4日の書簡では、今年中には政治上、経済上、国内は混沌とした状況を招くと憂慮して不安を述べる。

**検索手段** 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

**参考文献** 2014 収蔵文書紹介展「被爆時の県知事 高野源進とその書簡」図録、安藤福平「広島県知事・高野源進の書簡」（『広島県立文書館だより』39号（2015.3））、2014 講演会・安藤福平「新資料が語る広島壊滅のとき～広島県知事高野源進書簡と船舶司令部作命綴～」配付資料、その他「高野源進氏の書簡見つかる」（2014年3月17日付け『中国新聞』記事）など

（2015.12.12 改訂／西村 晃）

201310 広島市 高野源進書簡仮目録

201310／1

〔高野源進書簡等入封筒〕

鈴木千載→児玉正昭様

封筒・1袋(5点)

201310／1／1

○〔高野源進書簡〕(広島県知事着任, 当地は空襲  
 少なかりしも空襲を覚悟, 木造建築にて心のみあ  
 せり居り候)

昭和20. 6.20

高野源進→池田清閣下

巻紙・(1通)

封書は「広島県庁内高野源進→大阪府南河内郡狭山村池田清閣下」

201310／1／2

○〔高野源進書簡〕(広島市のみはさしたる被害も蒙  
 らず却って気味悪き, 目下大々的に建物の疎開を  
 実施中)

昭和20. 7.21

高野源進→池田清閣下

巻紙・(1通)

封書は「広島市下中町一番地ノ二官舎高野源進→大阪府南河内郡狭山村池田清閣下」

201310／1／3

○〔高野源進書簡〕(県庁員死亡せるもの六百六名,  
 重軽症者を加ふれば在庁員の全部と云ふも過言  
 に無之候)

昭和20. 9. 7

高野源進→池田清閣下

巻紙・(1通)

封書は「広島県安芸郡向洋県庁内広島県知事高野源進→大阪府南河内郡狭山村池田清閣下」

201310／1／4

○〔高野源進書簡〕(閣下には今般御辞任, 只々頭  
 の下る次第, 今明年中には国内は混沌たる状況  
 を招来すべく甚だ憂慮に不堪る次第)

昭和20.10. 4

高野源進→池田清閣下

巻紙・(1通)

封書は「広島県安芸郡向洋県庁内高野源進→大阪府南河内郡狭山村池田清閣下」

201310／1／5

○〔鈴木千載書簡〕(高野源進手紙四通に付き参考  
 の一助となればと思ひ電話を差上げた次第です)

昭和54. 2. 2

鈴木千載→広島県誌編纂室児  
 玉正昭様

便箋・(1通)

便箋2枚